年間授業計画

杉並高等学校 令和５年度（１学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教　科： 芸術　科　目: 書道Ⅰ　単位数: 2　単位

対象学年組：第 1 学年

教科担当者：（ 1組：山村 ）（ 2組：山村 ）（ 3組：山村 ）（ 4組：山村 ）（ 5組：山村 ）（ 6組：山村 ）

使用教科書:（ 教育出版 『書道 Ⅰ』 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現の工夫をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・楷書、行書、仮名などの書体の違いや、作品ごとの書風の違いを理解し、表現できる。 ・大筆と小筆の基本的な使い方を習得する。	・授業で理解した書体や書風の違い、表現方法などを理解し、 自らの作品制作に活かすことが出来る。 ・毎時の取り組みを振り返り、自らの修正点について観察、言語化することができる。	・毎時の取り組みを振り返りながら、自らの修正すべき点に気づき、粘り強く取り組むことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	1.書道概説及び基本点画について 【知識及び技能】 文房四宝の基礎的知識や基本的用筆法を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 執筆の際の合理的な姿勢について考え、意識し実践する。 【学びに向かう力、人間性等】 以上習得すべき点について、自らの習得度合いについて積極的に考え、修正しながら実践する。	・文房四宝の基礎的知識や手入れの仕方 ・中学校書写段階までの基礎的な用筆の復習と用筆の際の合理的な姿勢	○			○	【知識及び技能】 文房四宝の基礎的知識や基本的用筆法を習得しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 執筆の際の合理的な姿勢について自ら考え、判断して調整できているか。 【学びに向かう力、人間性等】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。	○	○	○	4
	2.唐代の楷書 【知識及び技能】 唐の四大家それぞれの書風の違いについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 四大家の書の具体的な違いについて言語化でき、且つ毛筆で表現できるよう努める。 【学びに向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、 修正しながら学習できる。	・書風について ・初唐の三大家の書を比較鑑賞しながら、書写で習得した筆遣いとの違いや、書風の違いとはどのようなことか、またその多様性について観察し、考える。 ・唐の四大家の書の用筆の違いを理解し、毛筆で表現する。		○		○	【知識及び技能】 唐の四大家の書風の違いについて理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 四大家の書の具体的な違いについてできる限り言語化し、毛筆で表現できるよう努力したか。 【学びに向かう力、人間性等】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。	○	○	○	14
	3.北魏の楷書 【知識及び技能】 唐代の書との書風の違いを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 唐代の書との具体的な違いについて言語化でき、 且つ毛筆で表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、 修正しながら学習できる。	・唐の四大家とはまた違った特徴を持つ書風を鑑賞し、多様な筆遣いを身につける。		○		○	【知識及び技能】 唐代の書との書風の違いを理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 唐代の書との具体的な違いについてできるだけ言語化し、毛筆で表現できるよう努力したか。 【学習に向かう力、人間性】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できている	○	○	○	4
	4.楷書の創作 【知識及び技能】 学習した楷書の書風を生かして書くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 学習した楷書の書風の違いを思い出し、用筆を工夫して表現できる。 【学びに向かう力、人間性】 書きたい言葉を考え、どのような書風で表現するかを考えられる。	・学習した楷書の書風・筆遣いを生かしながら表現する。 ・書きたい文字、言葉について考え、どのような書風にしたいかを考える。		○			【知識及び技能】 学習した楷書の書風、筆遣いを生かして書くことができたか。 【思考力、判断力、表現力等】 学習した楷書の書風の違いを思い出し、用筆を工夫して表現できたか。 【学習に向かう力、人間性】 書きたい文字や言葉、どのような書風で表現したいかを考えられたか。	○	○	○	4
2学期	5.行書の学習・蘭亭序・風信帖 【知識及び技能】 蘭亭序・風信帖の鑑賞と臨書を通して行書の基本的、発展的な表現技法を習得する。 【思考力、判断力、表現力など】 字形・用筆の双方から行書の特徴について考え、理解する。 【学びに向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、 修正しながら学習できる。	・蘭亭序の鑑賞と臨書を通して字形の特徴、運筆のリズム、筆遣いなど行書の基本的な表現技法を習得する。 ・風信帖の鑑賞や臨書を通して、蘭亭序とは異なる多様な筆遣いについて知る。 ・字形・用筆の双方から行書の特徴について考え、理解する。		○		○	【知識及び技能】 蘭亭序・風信帖の鑑賞と臨書を通して行書の基本的、発展的な表現技法を習得できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 **字形・用筆の双方から行書の特徴について考え、理解できたか。** 【学習に向かう力、人間性】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。	○	○	○	24
	6.行書の学習のまとめ・創作・鑑賞 【知識及び技能】 学習した行書の特徴を生かして書くことができる。 【思考力、判断力、表現力など】 どんな言葉を、どのような表現で書きたいかを考え、表現することができる。また他者の作品も鑑賞し、言葉や表現方法について考え言語化する。 【学習に向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、 修正しながら学習できる。	・行書の特徴を生かして書くこと。 ・どんな言葉を、どのような表現方法で制作したいかを考え、制作する。また、他者の作品についても鑑賞し、多様な表現方法でについて考え、言語化する。		○		○	【知識及び技能】 学習した行書の書風を生かして書くことができたか。 【思考力、判断力、表現力等】 どんな言葉を、どのような表現で書きたいかを考え、表現することができたか。また、他者の作品を鑑賞し、表現について考え、述べることができたか。 【学習に向かう力、人間性】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。	○	○	○	4

3学期	7.仮名単体の練習と蓬莱切・高野切の臨書 【知識及び技能】 仮名の起源について知り、字形や用筆について理解する。 仮名の基本的用筆を習得する。 【思考力、判断力、表現力など】 仮名の字源を知り、仮名の字形をよりよく理解して書くことができる。 【学習に向かう力、人間性】 以上の点について、自らの習得度合いについて的確に評価し、 修正しながら学習できる。	・仮名の起源について知ることで、仮名の字形をより理解できるようにする。字形や用筆について理解する。 ・仮名の基本的用筆を習得 ・仮名独特の字形、連綿などの用筆に慣れ、変体仮名について知る。 ・高野切特有の字形、線質、配置の美しさを知る。 ・散らし書きとは何かを知る。			○		【知識及び技能】 仮名の起源について知り、字形や用筆について理解できたか。 また、仮名の基本的用筆を習得できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 仮名の字源を知り、仮名の字形をよりよく理解して書くことができたか。 【学習に向かう力、人間性】 授業内での取り組みを振り返りながら、各自の修正すべき点に気づき、多少なりとも修正できているか。	○	○	○	10
	8.短歌の創作と作品制作 【知識及び技能】 一年間の授業で学習した用筆、表現方法などを活かして制作する。 【思考力、判断力、表現力など】 自身や身の回りを観照したりしながら、短歌の題材を探し、短歌・短文を書く。 【学習に向かう力、人間性】 自身や身の回りの環境などについて振り返り、粘り強く考え、言語化し、表現すること。	・一年間の授業で学習した書風、書体、用筆、配置などの表現方法などを活かして制作する。 ・題材の見つけ方などについてともに考え、短歌・短文を書く。	○				【知識及び技能】 一年間の授業で学習した用筆、表現方法などを活かして制作できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 自身や身の回りを観照したりしながら、題材を探し、短歌・短文を書けたか。 【学習に向かう力、人間性】 自身や身の回りの環境などについて振り返り、粘り強く考え、言語化し、表現できたか。	○	○	○	6 合計 70